



▲ 小林さんのガラス作品の制作風景と、見事な出来栄えの一本のガラス管から生み出されたトランペット。



▲ ブタの中にブタ。そのブタの中にさらに小さなブタが入っている不思議なガラスの置物。童謡の「三びきのこぶた」が制作のヒントになったとか？

日ガラスにどっぷりと浸かった人生を送ってきたと
のことでした。そんな小林さんでも、さすがに家では
ガラスを見たくないと、陶磁器の食器しか使わな
いそうです。

播らめく炎再び！

千五百℃にもなるバーナーの炎とそのバーナーに
送り込まれる空気が起すゴーゴーという大きな音が
出てとても自宅ではできないため、退職後はガラス
からしばらく遠ざかっていました。しかし、今年の

初夏に、「癒しの郷・嘉麻山荘」を営むご主人とたま
たま出会い親睦を深めるなか、「そんな素晴らしい技
術を埋もらすのはもったいない。」と、自然豊かで静
かな山中の工房を提供していただき今また、ガラス
細工の透き通った美しさと、できた時の満足感で楽
しい毎日を送っています。

若い人にもどんどん腕を磨いて頑張ってもらいたい

工房で制作のあいまに、技の継承について尋ねる
と、小林さんは職場で数多くの若者に技術指導をし

てこられたそうです。今の若い人は勉強熱心で頭が
よく基本的な技術の習得は早いそうです。しかし、
まじめで決められたことしかしないため、それ以上
伸びないのが欠点だとか。「こうしたらより使い勝手
がいい。」や「こうしたらより美しい。」といった想
像力や遊び心も時には必要。「今持っている技術に創
意工夫を加え、努力を惜しまず頑張ることこそが、
腕を磨く最短の道ではないでしょうか。」と話されて
いました。ガラスのように澄んだ瞳で穏やかな笑顔
で炎を見つめる素敵な桂川人、小林さんでした。

【お知らせ】

9月20日～10月19日
桂川町立図書館にて小林さんのガラス
細工作品を展示します。
詳しくは、17ページをご覧ください。